# 翔生（しょうせい）

創刊号

題字　日本商工会議所　会頭　五島　昇

発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3－2－2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03－283－7847

編集　広報委員会


## 創刊号発刊によせて

全国商工会議所青年部連合会
代表幹事　中山昌男

わが国経済は今日、技術革新、情報化、国際化の進展など二十一世紀に向けて、いわば一大転換期にさしかかっており、それだけに地域経済に大きな役割を果たしてきた商工会議所に課せられた責務は重く、また期待は大きいものがあります。

このような中にあって、若い情熱と豊かな創造力、実践的な行動に裏打ちされた私たち商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う若手経営者、後継者として地域のニーズに基づいた活動の展開をはかり、豊かな地域社会づくりに努力を傾注していかなければならないと思います。

現在、商工会議所は全国に四八五ありますが、そのうち青年部を設置している商工会議所は二六六（昭和六十一年八月末）で、部員数は一万九千人を数えております。全国商工会議所青年部連合会（商青連）が昭和五十八年四月に発足して以来、青年部相互の交流の輪が広がり、さらに各地商工会議所において青年部の設置が進んで参りましたことは大変喜ばしい限りであります。

この「翔生」は、商青連の機関紙として全国商工会議所青年部会員の連帯の輪を広げ、その団結を強化するとともに、各位から寄せられる意見や主張が商工会議所青年部の今後取り組むべき問題、あるいは進むべき方向を示すものとなることを信じてやみません。

翔生（造語）、これは公募によるネーミングでありますが、名付け親の筑後市商工会議所青年部会によりますと、「鳥が空高く飛ぶように生きる」躍動のイメージを行動する商青連および青年部にダブらせたものだそうで、まことに同慶の至りであります。また、音としての響きが「しょうせいれん（商青連）」に通じることも機関紙を身近に感じていただけるものと思います。

関係各位の心からのご協力により、ここに商青連機関紙創刊号を発刊する運びとなりました。ご協力を賜りました各位に対し深甚なる謝意を表しますとともに、この「翔生」が商青連および青年部活動の活性化に通じますよう強く念願する次第であります。

青年部の目的は、青年経済人としての資質の向上と会員相互の交流を通じて、己の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことにあります。

もとより青年部は商工会議所が生み出した、いわば商工会議所の子供のような存在です。私たちはこのことを常に認識しておかなければなりません。その認識に立ったうえで「行動する商工会議所」の一翼を担い、組織・運営、事業のすべてに一層の活発化をはかりながら自らの役割を果たしていきたいと思います。

二十一世紀を目前にした今、私たちは決意を新たに自らの歩みを進めようとしています。商工会議所百年余の歴史を受け継ぎながら新たな時代へ向けて突き進もうではありませんか。

皆様方の一層のご協力、ご鞭撻をお願いいたしまして発刊のご挨拶といたします。

## 来る十月十八日（土）
## 第六回全国大会開催!!

主管　福島県商工会議所青年部連合会　　会場　福島県文化センター

### ご挨拶

大会会長　萩原幸昭

若さ溢れる全国青年経済人の皆さん、第六回商工会議所青年部全国大会に皆様を当地福島にお迎えできますことを栄誉とし、今その準備に私ども県青連一千人の会員が英知を結集し、全力投球しているところであります。

このすばらしい出会いをさらに明日への礎となりますようまた福島の旅情を肌でふれられますことを念願し、一同皆様のご来福を心よりお待ち申し上げております。

吾妻小富士

### よらんしょ、こらんしょ、福島へ！

全国の仲間の皆さん、お元気でご活躍のことと思います。福島の仲間も元気でがんばっております。

すでにご案内の通りですが、今年度の商工会議所青年部全国大会の主管の栄誉を福島県青連が浴しました。私たちは、十月十八日の大会の成功にむけて、その準備におおわらわの毎日を送っております。

福島盆地のほどよいところに、福島市民が心から愛する、ほどよいたたずまいをもった信夫山という山があります。その信夫山に憩うすずめのおしゃべりに耳をかたむけてみました。

「福島にはない、はね駒のおりんちゃんみだいな娘っ子が、いっぱいいるんだぞい。来てみっとすぐわがっから」

「温泉があっちこっちにあんだ。飯坂だべ、高湯だべ、土湯だべ……」

「混浴は？」

「さぁ、どうだったべない？」

「くだものはうまいぞい。みんなうまいんだ。モモだべ、リンゴだべ、ナシだべ、柿にブドウだべ……。ほっぺたおどさねようにない」

「名所旧跡いっぱいある。風光明媚さこどかかね。もみじがりでもゴルフでも、仲間は必ずよろこぶさ。民芸品もたんとある。山菜もうまい。川魚もいい。こんないいどこ、なかなかない。俺好きだ、俺好きだ」

「福島さこらんしょ。かならずこらんしょ。がっかりなかさせねがら、みんなでよらんしょ、こらんしょ、福島へ！」

さて、第六回商工会議所青年部全国大会は「商工会議所若さがつくる新時代」という大会テーマをかかげました。

成長期から成熟期に、移行物の見方、考え方などのぶつかり合いが、明日の運動への道標となるのだと思います。

本大会のパネルディスカッションのメーンテーマは、「日本の新たなる進路を求めて」、サブテーマは、「地方の時代、今、そしてこれから」であります。お互いに真摯に学びあおうではありませんか。何かが生まれます。自分が住む街の歴史的必然性に裏うちされた発展への手法、解決法などが見つかるかもしれません。

私たち青年経済人が、情熱と英知をもって、福島に集うとき、明日への大いなる飛躍への〝かて〟が約束されるものと考えます。

全国の仲間の皆さん、十月十八日、福島市でお会いいたしましょう。心から歓迎いたします。

### ふくしまの物産

## 「商工会議所青年部の歌」歌詞決まる

商青連では、商工会議所青年部（会）の会員相互の連帯と意識の高揚を図り、加えて青年部活動を広くPRすることを目的として、先般「商工会議所青年部の歌」を作成すべく、その歌詞を公募しましたところ、全国より四十四件の歌詞が寄せられました。誠にありがとうございました。このたび、これをもとに厳選なる審査を行った結果、石井耕二さん（福山商工会議所職員）の「伸びゆく大地」が入選作と決まりました。曲については愛知県立芸術大学名誉教授の石井歓先生（プロフィール後掲）にお願いしております。

なお、十月十八日に開催される第六回商工会議所青年部全国大会（福島市）で作品発表ならびに歌い初めを行いますので、ご期待ください。

（関連記事は四面に掲載）

# 地域経済の主役 躍動する青年部
## ARE・KORE

## 北陸・信越ブロック

### 『部会紹介』

富山商工会議所青年部会会長　大愛恒雄

当部会は日本経済が石油ショック直後の混乱の時期であった昭和五十年四月、このような激動期を乗り切るには若い青年経営者が相互に連携し、経営上の共通問題の研究、経営意識の涵養と経営技術の習得をすることによって、企業基盤の確立をはかり、あわせて地域経済、社会文化など各方面にわたる発展への推進役を育成することを目的として二十数人の発起人によって設立されました。現在に至る十二年間に会員数は百数十人となり、その間事業として定例会をはじめ、各委員会活動、商業、経営、情報の各ゼミナールの開催、そして「おれたちの夏祭りを」を合言葉にはじめた『富山おらっちゃ祭り』と各事業とも年を追うごとに活発になっています。また、親会議所に対しては今年度から議員で構成されている委員会へ十四人の配属が決まり、いよいよ今年から青年部会が親会議所へ参加することになりました。

しかしながら、現在の経済環境は急激な円高、高度情報化をはじめとして当部会設立当時とは違った意味で一層の激動の時代ではないかと思います。今、日本は経済、文化面で急激に変わろうとしています。このような時代、私たち青年部会は今後何を目指し、何をしなければならないか試行錯誤を繰り返しながら真剣に考えなければならない時期ではないだろうかと考えます。

さて、それでは本年度富山商工会議所青年部会の主な事業を紹介します。

一、定例会

①総会（四月）、臨時総会（一月）、歓送会（三月）

②ゼミナール、視察

●まつりシンポ（新曲レコード発表会、講演、ミスコンテスト）（六月）

●都市視察（福島全国大会参加）（十月）

●総合ゼミナール（記念講演、商業・経営・情報各ゼミナール）（十一月）

●委員会発表（各委員会一年のまとめ）（三月）

③ファミリー大会

●ファミリースポーツ（五月）

●ファミリークリスマス（十二月）

二、委員会（月に一回開催）

①商業委員会

厳しい経済環境を乗り切るために、全員参加、全員発言の「参加から参画」の委員会活動を通じてお互いの信頼感を高める。

②経営委員会

競争に打ち勝つ方法と新事業への参入の両面で経営者が持つ悩みを解消し、勝ち残るための方法を討論する。

③都市委員会

交通機関の発達が都市の変遷にどのようにかかわってきたか、特に今後富山においてどう影響するかを考える。

④情報委員会

急速に進む社会変化や技術進歩の中で、情報をいかに迅速に入手し経営に、企業戦略に活用するかを考える。

三、富山おらっちゃ祭り（八月一日、二日）

●私たち青年部会が母体となっている実行委員会が主催し、富山まつりの核となっている祭りで今年で九回目を迎える。富山市民の祭りとして市民の間に定着しつつある。富山市の中心地西町において、今年は一日に「おわら大会」、二日に「みんなでおどろうサンバ大会」を開催する。

●富山市観光協会、富山商工会議所と共同で明るい富山をイメージしたサンバ調の富山イベントテーマソング「光の街のサンバ」を制作し、春のとやま桜まつりで曲と踊りを披露、まつりシンポでレコード発表会を開催した。

## 関東ブロック

### 『姉妹都市コランバス市訪問』

桐生商工会議所青年部会会長　金子篤正

当青年部会は四月八日から二十日まで、桐生市の姉妹都市アメリカ合衆国ジョージア州コランバス市を訪問、この間の視察結果を一冊の報告書にまとめました。

桐生の青年部会は昭和五十七年に発足、青年実業家としての"行動力"をモットーに、既存の団体組織の枠にとらわれない自由さと可能性の未知数に挑戦していこうという大前提を持ち活動しています。

このため、青年部会内に委員会組織を設け、昨年から地域づくりのテーマ別プロジェクトとして、姉妹都市委員会を誕生させました。桐生市には茨城県日立市、徳島県鳴門市、イタリアのビエラ市、米国コランバス市の四つの姉妹都市があります。このうち、コランバス市は最も新しく五十三年に調印した都市であり、五十九年にはコランバス市から約一万二千坪の土地が桐生市に贈呈され、そ閑静な場所で、コランバス側では両市の共同事業によって、日本庭園や屋外美術館を有する桐生公園としたい構想を持っています。日野団長、ファイトナー市長らはここで記念植樹を行い、末長い友好を誓合いました。また、商工会議所や工業団地などを訪れ、コランバス市の概況をつぶさに見学、得難い体験の連続でした。

今回の交流の成果は、第一に民間交流の礎を築いたことがあげられます。具体的には、コランバス大学が桐生からの交換留学生を受け入れることを約束してくれたことで、大きな収穫でした。帰国後、桐生から二人の女子学生の留学が決定し、交流はますます盛んになっていきそうです。また、事業を営む若い団員たちにとっても、今後、国際化の時代への対応という面から、今回の体験は実り多いものとなりました。

完成したコランバス市視察報告書

の活用プランについてを、桐生市から青年部会にゆだねられていました。

今回の親善訪問は、初の民間使節団として、民間レベルでの交流に拍車がかかるものとしての期待を受け、青年部会としてもこれに応えられるよう親善訪問団を組織しました。訪問団は、日野茂部会長（当時）を団長に総勢二十人。四月八日に成田空港を発ち、ロサンゼルスを経由してコランバス市に降り立ちました。四月九日、十日の両日、コランバス市を公式訪問、まずコランバス市庁舎におもむきファイトナー市長以下職員の熱烈な歓迎を受けました。この模様は地元テレビ局からも放映され、現地でも大きな話題になりました。続いて、桐生市に寄贈された土地に案内されましたが、ここは中心街から東に約二十キロ離れた丘陵地で、「桐生ガーデンパーク」と名付けられていました。すでに、入り口には案内板が建てられ、付近は松林に覆われたページにまとめられ、親善訪問の成果をつぶさに報告しています。報告書は、桐生市をはじめ関係官庁、関係方面にも配布し、今後もなお一層、コランバス市との友好の輪を大きく広げていこうと念願しています。

コランバス市庁舎でのレセプションにのぞむ日野団長

視察報告書はA4判、四十

なお、七月六日にはファイトナー市長夫妻、ラグランド商工会議所会頭夫妻らが来日し、桐生商工会議所主催のレセプションで、感激の再会をはたし、変わらぬ友情を確かめ合いました。

## 九州ブロック

大村商工会議所青年部会会長　高瀬嘉博

当会は本年八月で九年目を迎えます。

設立時の経緯として、当市は戦時中軍都の性格上、空襲などの打撃によって終戦直後起業された商工業者がほとんどでした。ところが戦後三十余年を経て創業者の高齢化がすすみ、ご多分にもれず後継者問題が顕在化してくるとともに、高度成長時代の終焉がみえてきました。当然、時代にあった経営感覚と後継者育成の急務が求められた訳です。商工会議所でも特別委員会の設置などを含めて対策が考えられましたが、当時各地で青年部の設立がみられ、親会議所で検討した結果、この問題は次代の経営者自身が実践的な方法で解決して行くのがベターであろうということで設置が促されました。

直ちに担当員がおかれ構想一年の後、設立発表と同時に会員募集が行われ、わずか一週間余で八十四人の同志が集まりました。若手経営者が如何にこのような集まりを望んでいたかの現れと思います。

当会の設立目的は大きく二つあります。第一に自企業を含め会員自身の資質向上をめざす。第二に次代のコミュニティーリーダーにふさわしい地域社会の活動への参加です。

この二本の柱をもとにして種々の事業を進めていますが初めから万全の態勢で臨んだ訳ではありません。例えば規則にしてもこの八年間に五回改正され、この間細則を設けるなどをしています。

組織運営には「人」と「金」が不可欠といわれますが、「人」については、会員数においてここ数年間六十～七十人の規模で推移しており適正規模と思われます。ただ文字どおり団塊の世代に会員が集中しているため、それ以後の絶対数が懸念されるところです。

なお「金」については会員の負担はできるだけ薄く、効果（事業費）は厚くのジレンマが常につきまとっていますが、中小企業集団育成事業補助金や職域児童育成事業助成金の導入、さらに単独事業による収益などでしのいでいるのが実情で、毎年各委員会から出される事業計画と予算要求による配分合戦はかなり激しい応酬がみられます。

当会が二年目からてがけてきたF・F事業について若干述べてみます。一言でいえば花いっぱい運動となりますが、フラワーフレンド運動と称して環境美化と児童への情操向上を目的として年間五十万円程度で市内のパブリックゾーンや駅周辺などに四季の花壇づくりをつづけています。この事業のもう一つのねらいは経済に直結しない社会活動を通じてバランスのとれたリーダー感覚の会得にあり、また会の存在を市民にアピールするということでもあります。

青年部は人間の年齢でいうなら小学生、まだまだ沢山の課題を積んだままですし、時代によって課題が発生することを考えればゴールのない集まりといえます。だからこそ意欲ある青年にとっては魅力ある団体ではないでしょうか。

市民によろこばれるF・F事業

# 青年部誕生の記

尾鷲商工会議所青年部（三重県）部長　国本敏行

全国商工会議所青年部連合会機関紙創刊号の発刊を心からお慶び申し上げます。

私ども尾鷲商工会議所青年部は、本年二月に誕生したばかり、商青連にも加入ホヤホヤの新生児であります。

地域の次代を担う青年経済人の組織化をと準備に入ったのが昨年九月、私も設立メンバーの一員として加わり、規約検討から、事業計画、部員募集方法など諸事項について数回にわたる準備委員会を経て、本年二月十三日にめでたく設立総会を開催いたしました。

主旨賛同を得て参集した部員九十二人、当初予想していた人員をはるかに超える盛況に、準備委員一同喜びを分かち合うと共に、新生の青年部に寄せる期待感の中に身のひきしまる思いがしたものです。

総会席上、初代部長の重責を仰せつかるに至ってその思いは一層深く、参集の部員各位の期待に応えるべく精一杯の努力をと心に誓った次第でした。

当市は紀伊半島南端に位置し、豊富な水産・山林資源を基盤とした水産業・林産業を中心に発展してきた地方小都市ですが、近年基幹産業の低迷、商工業も沈滞傾向にあって、地域の新たな振興、活性化が大きな課題とされてきているところです。このような中で青年部への期待の大きさもこうした経済的背景と無縁でなく、若手経営者層の危機感の現れともいうべきもので、地域の将来を憂い、自らその将来を拓く一端を担っていこうとする同志集団とも性格づけることが出来るのではないかと思っております。

既に、本年四月始動以来四カ月になりますが、地域の今後を青年経済人としてどう考えるかをテーマとして、企画研修、産業関発、都市計画、観光開発、情報化推進の五委員会を組織、各分野ごとに事業企画や、研究検討、視察研修など意欲的に活動を進めており、その成果を地域振興、活性化に反映させるべく一同鋭意努力中です。

また、その途上、全国各地の青年部に部活動の資料提供をして頂くなど、種々ご教示頂くところ大きいものがありました。

この機会に改めてお礼を申し上げたいと思います。

今後とも、地域の次代を担う若者集団として相互の啓発と親睦を図りつつ、その英知と活力を結集して、地域振興、活性化の方途を模索し、行動し、提言する青年部として活動を進めていく所存です。先輩諸兄のご指導ご協力をお願い申し上げ、誕生の記といたします。

# ようこそ商青連へ……

## 新入会員紹介

### 橋と歴史と人情の町

岩国商工会議所青年部（山口県）
部長　小林幹生

わが郷土、岩国は中国山脈の西端、山口県のほぼ中央にある大潮山に源を発し延々百二十五キロを流れて広島県境の地に出来た街です。岩国という地名の由来は、つまびらかでないが岩国を記した文献は数多く、万葉集、源平盛衰記など数書にも散見できるが慶長五年関が原の戦いの結果、吉川広家が出雲富田からこの地に移封され、城を構え城下町の屋敷割を画した時に岩国の起源を求めるのが通説となっております。

市制施行は昭和十五年で現在人口十一万四千人を擁し、山口県東部の産業、経済、政治、文化の中心として、また名橋錦帯橋をはじめ天然記念物の白蛇など、数々の名所旧跡を有する観光都市として年間二百万人に及ぶ観光客を迎えているほか、瀬戸内海工業地帯の一翼を担う工業都市として発展途上にあります。

岩国商工会議所青年部も五十九年六月会員事業所の青年経営者および経営能力を高め、企業の伸展を図るとともに青年部活動を通じて、地域経済、社会の発展と商工会議所の事業活動に寄与し、併せて会員相互の啓発と親睦を図ることを目的に設立されました。以来活発に所期の目的に向かって事業、行事を推進しており、特に定例的に理事会（第二水曜日）、月例会（第三木曜日）を開催し、各委員会の活動報告、三分間スピーチ、講師例会などを開催しております。六十一年度は特に会員の拡大と委員会、理事会、月例会の出席率の向上を図ることを柱に、活発な活動の展開を図っております。

### 青年部誕生と今後の運営について

須賀川商工会議所青年部（福島県）会長　近藤準一

今から五年ほど前、渡辺半蔵会頭より設立についての要請があったが、当時は須賀川青年会議所が、地域開発などについて、商工会議所と手をたずさえ積極的な運動を推進しているさなかであり、諸般の事情から青年部設立の必然性を感じなかった。

ところが、昭和六十年夏頃より、専門店会青年部あるいは商店会連合会などの若者たちが、地域の活性化、自らの企業の経営研究などに積極的な動きをするようになり、青年が一同に会し連絡調整をし、また、共同歩調をといった考えが親会議所ならびに青年たちの間で出るようになり、そこに青年部設立の必然性が見い出された。さらに、全国大会が福島市で開催されることもはずみとなった。

国指定名勝 牡園内での記念式典

今秋には商工会議所創立四十周年を迎え、数々の記念行事、事業が計画されているところであり、青年部としても記念岩国祭に白蛇綱引き大会を企画し、祭りの盛り上げに協力するとともに十一月二十三日の記念式典、全員大会にも協力参加します。

最後に全国商工会議所青年部連合会へ入会し、全国の青年部のみなさんとの交流を深め、青年の若さと英知を会議所活動に傾注したいと存じますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

設立準備委員会を設置し、他市青年部へも勉強のため足を運ぶなど、設立までは十分な時間をかけ、須賀川らしさを持った青年部づくりを目指し、六十一年五月二十四日に百八人の会員で、親会議所ならびに須賀川市民に祝福されてスタートした。

今、須賀川地方では、昭和六十八年開港へ向けて福島空港の大型プロジェクトの問題、商業近代化へ向けての実施計画の策定など、街づくりの大きな転換期に直面している。

会員各自が常に街づくりと自らの企業を行き来しつつ、商工会議所の事業を認識して、青年としての夢と希望を提言し、アクションとして須賀川の未来へ向けて一役も二役も買って行きたいと思っている。

### エネルギッシュな活動で街づくりを

平田商工会議所青年部（島根県）代表理事　大島　治

新しい感覚と若い情熱により、平田市の活性化を期待され、青年部が結成されたのが、昭和五十三年十一月であります。

生みの親である飯塚前会頭（現顧問）はじめ多くの役職員のご支援と内田現会頭のご指導を得て、八年を迎えようとしております。現在会員四十六人、企画広報、経営者開発、地域開発の三委員会で積極的な活動を展開しています。

当時、若手経営者が地域商工業の現状に危機感をもち親会に申し入れ、当時の飯塚前会頭の理解のもとに青年部が誕生しました。

青年部は、青年経営者および次期経営者を対象に、人格、教養および経営能力を高め、企業の近代化を図り、親会に協力して地域商工業の発展に寄与することを目的とした団体です。

青年部は、サロン会であっても、親会の下請団体であってもならないはずです。

多様化する時代的要請に応えて、次代を担う経営者として若いエネルギッシュな活動と意見具申が、地域の活性化を生み、将来の展望を開くものと確信しています。

活動をふり返ってみますと、国鉄・国道のない当市の念願であった主要地方道（湖北線）の国道昇格問題では、いち早く市民運動を盛り上げ、関係機関への陳情など敏速な対応で実現をみました。

また、平田市の将来ビジョンを検討する民間サイドでの平田市総合開発協議会の設立、企業誘致の推進、新しい商業集積地づくりのための視察、調査研究から報告書づくり、将来の産業祭を目指してのふれあい大市（家庭不用品の交換市、会員事業所の展示即売）の開催、さらに商工会議所会員を対象に青年部の主管による会員親睦球技大会、親会より正副会頭、事務局の出席を得て地区会議所会員との青空商工会議所の開催、親会に対する提言活動などを展開し、青年部に対する認識を得てきました。

本年度の事業は厳しい経済環境の中で原点に立ち返り、会員個々の経営に主眼を置いたテーマを中心に取りあげました。

委員会活動が中心で、他の委員会との連携がおろそかになりがちだという反省からも、全会員対象の研修会を一年のシリーズで取りあげ、「企業経営のあり方」という講習会を行っています。

全国の皆様の幅広い友情を通じ、研鑽をますます深めていきたいと思いますのでよろしくご指導いただきますようお願い申し上げまして、入会のご挨拶にかえたいと思います。

数字の読める経営者づくりが目標です。

また最近は、婦人の方も青年部に加わり活動していますが、同性でなく異性からの意見が聞けていいと大変好評です。一人でも多く加入していただけるよう努力をしています。

青年部が本当に期待される組織として成長していくためには、全員一致協力し、運営に参加していかなければならないと思います。

親会議所はもちろん、行政・他の経済団体・各種団体とも協調連携し、具体的活動へと眼を開かねばならないと考え、商青連へも加入した次第です。

# 商青連の歴史

## 設立経過

商工会議所青年部は、青年経済人の研鑽の場として、また中小企業の後継者の育成そして商工会議所の活性化―組織の強化という観点から、その必要性が生じてきた。

活動の中心は、あくまでも企業経営の勉強であり、交流を通じて企業の発展をはかることにあるという青年部の理念や青年会議所との相違点についての認識が深まるにつれて、青年部を設置する商工会議所が急速にふえてくる一方、先進青年部の中からは、青年部の全国組織化をはかってほしい、全国大会を開催してほしいといった要請が七～八年前から日商に寄せられ、日商としては、全国組織化や全国大会を開催する前に商工会議所青年部の目的なりあり方を確認し合うことが必要ではないか、ということで地域ブロックごとに青年部の運営研究会を開催し、これを通じて青年部の設置を促進してきた。

こうしたステップを経て、五十六年十一月、群馬県の前橋市で初めて商工会議所青年部全国大会を開催することになったのである。この前橋大会の目的は二つあった。その一つは、この全国大会を起爆剤として青年部の設置を促進すること、もう一つは、青年部の全国組織化について検討することであった。

前橋大会開催時、青年部を設置する商工会議所は百四十七、青年部は百五十九であったが、その後青年部は続々と設置され、現在では四百八十五の商工会議所に二百六十六の青年部が設置されるに至っている。前橋大会以降、百七の商工会議所に青年部が新設されたことになる。

また、前橋大会においては全国組織化について、いろいろ意見が出された後に、全国組織化をはかれという提案が出され、大会参加者全員の総意で、これが採択された。

日商では、前橋大会での約束にもとづいて、全国九ブロックの青年部代表二十五名から成る「全国組織化推進委員会」を設け、全国組織化について、改めて各委員の考えを確かめた。

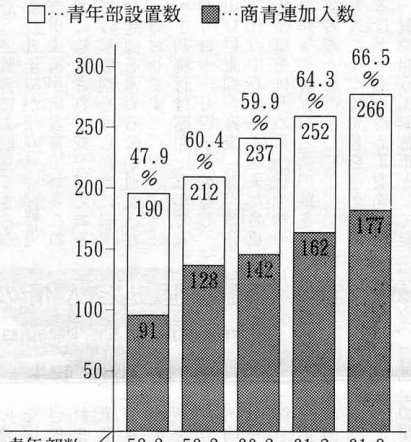
その結果、①青年部の交流を広めるために、全国連合会は必要である②全国連合会をつくることにより、青年部の設置がさらに促進される、の二つの理由から全国組織化の必要性が再確認され、更に検討を重ねた末、連合会の発足は五十八年四月一日からということになった。

このような経過を経て、現在に至っているが、全国大会もこの間を含め、昨年の福井大会まで、五回を開催するに及んだ。

過去の開催を振り返ると年々参加者も増えて来ている。

第一回前橋大会　五十六年十一月十一日
第二回高岡大会　五十七年十月二十九日
第三回大分大会　五十八年十一月十一日
第四回水戸大会　六十年三月十八日
第五回福井大会　六十年十一月九日

## ◇商青連加入数と加入率の推移




## ◇商青連加入青年部（昭和61年8月2日現在）

| ブロック名 | 県名 | 商工会議所青年部名 |
|---|---|---|
| 北海道 | 北海道 | 美幌　浦河　登別 |
| 東北 | 青森 | |
| | 岩手 | 一関　江刺　久慈　北上 |
| | 宮城 | 仙台　塩釜　白石 |
| | 秋田 | 大館　秋田 |
| | 山形 | 山形　酒田　鶴岡　米沢　長井 |
| | 福島 | 原町　相馬　二本松　いわき　白河　福島<br>郡山　会津若松　会津喜多方　須賀川 |
| 北信越 | 新潟 | 燕　五泉　亀田　村上 |
| | 富山 | 富山　高岡　氷見　新湊　魚津　砺波　滑川　黒部 |
| | 石川 | 輪島 |
| | 長野 | 下諏訪　塩尻　中野　松代 |
| 関東 | 茨城 | 水戸　古河　石岡　那河湊　結城　勝田<br>土浦　日立　下館 |
| | 栃木 | 小山　真岡 |
| | 群馬 | 前橋　桐生　伊勢崎　富岡　藤岡 |
| | 埼玉 | 上尾　本庄 |
| | 千葉 | 銚子　木更津　茂原　東金　柏　市川　野田　八街 |
| | 東京 | |
| | 神奈川 | 横須賀　厚木　秦野　鎌倉　小田原 |
| | 山梨 | |
| | 静岡 | 浜松　沼津 |
| 東海 | 岐阜 | 関　恵那 |
| | 愛知 | 蒲郡　春日井 |
| | 三重 | 鈴鹿　熊野　津　尾鷲 |
| 近畿 | 福井 | 福井　敦賀　武生　勝山　錦江 |
| | 滋賀 | 彦根　草津 |
| | 京都 | 舞鶴　綾部　宮津　亀岡　福知山 |
| | 大阪 | 北大阪　高石　守口門真 |
| | 兵庫 | 洲本　小野　高砂 |
| | 奈良 | 奈良　生駒 |
| | 和歌山 | 田辺　紀州有田　海南　橋本 |
| 中国 | 鳥取 | 鳥取　米子 |
| | 島根 | 松江　出雲　益田　大田　江津　浜田　平田 |
| | 岡山 | 津山 |
| | 広島 | |
| | 山口 | 山口　下関　徳山　下松　萩　山陽　長門<br>光　小野田　小郡　宇部　岩国　柳井 |
| 四国 | 徳島 | 鳴門　阿波池田　阿南　鴨島 |
| | 香川 | 高松　坂出　観音寺　多度津　善通寺　丸亀 |
| | 愛媛 | 八幡浜　西条　大洲　宇和島 |
| | 高知 | 高知　中村　須崎 |
| 九州 | 福岡 | 豊前　筑後市　宮田　甘木　行橋 |
| | 佐賀 | 鹿島　小城 |
| | 長崎 | 長崎　島原　大村　福江　諫早　平戸 |
| | 熊本 | |
| | 大分 | 大分　佐伯　臼杵　津久見　佐賀関<br>豊後高田　竹田　別府　日田 |
| | 宮崎 | 日向　高鍋 |
| | 鹿児島 | 指宿 |
| | 沖縄 | 那覇　沖縄　沖縄宮古 |

## 各地でブロック別部会長会議開催される!!

運営研究会開催時に行われてきたブロック別部会長会議が、今年度から二回以上開催されることとなり、それぞれ、運営研究会に先がけて行われた。

| ブロック名 | 開催期日 | 開催地 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | 6月21日(土) | 登別 | 5青年部42名 |
| 東北 | 6月14日(土) | 仙台 | 16青年部30名 |
| 北陸・信越 | 4月26日(土) | 高岡 | 13青年部22名 |
| 関東 | 5月14日(水) | 上尾 | 37青年部74名 |
| 東海 | 7月7日(月) | 春日井 | 9青年部19名 |
| 畿近 | 6月13日(金) | 北大阪 | 10青年部21名 |
| 中国 | 5月17日(土) | 松江 | 15青年部31名 |
| 四国 | 6月24日(火) | 高知 | 21青年部54名 |
| 九州 | 4月19日(土) | 鹿島 | 18青年部34名 |

## 『商工会議所青年部の歌』入選作発表!!

**「伸びゆく大地」**
**福山商工会議所**
**石井耕二（三十九歳）**

商工会議所　青年部
求めて我らは　立ち上がる
二幾山河を　越えていく
道は果てなく　遠いけど
夢追う気持は　忘れない
人と人とが　結ぶため
心と心を　語りあい
商工会議所　青年部
時代を我らは　先駆ける
三自由の海の渚には
世界の波が　打ち寄せる
歴史の舵は　いつの世も
熱あるる者が　取ってきた
豊かな郷土を　築くため
商工会議所　青年部
明日に我らは　船出する

**作詞者**

**石井　耕二さん**
**福山商工会議所勤務**
**（商業係長）**

石井さんは、現在、福山市商連の機関紙「商店街ニュース」の編集に携っており、その機関紙上で、毎回「ふくやまの詩」（よく知られた曲に福山を取り入れた詩をつける）を発表しているが、この経験から、今回、応募し、見事に入選された。

なお、ほかにも優秀な作品が多数寄せられたが、佳作には、次の方々が選ばれた。

**芦田　茂さん（57歳）**
高槻商工会議所
工業部会委員

**吉井　俊夫さん（54歳）**
㈱トーパック代表取締役
塩釜商工会議所事務局長

**作曲者**

**石井歓先生プロフィール**

●一九二一年　東京に生れる。●十五歳より父・石井漠舞踊研究所にて舞踊曲の作曲にあたる。●一九四九年　NHK音楽コンクールで管弦楽部門第一位受賞。●一九五二年　西独ミュンヘン国立音楽大学にて作曲と指揮を学ぶ。帰国後、桐朋音楽大学にて教育にあたる。●一九八四年　紫綬褒章受章。●現在　愛知県立芸術大学名誉教授。㈳全日本合唱連盟理事長。

## 会報ネーミング決まる!

皆さまより募集しておりました会報のネーミングが、応募五十八点の中から選考の結果、福岡県の筑後市商工会議所青年部会より応募のありました〝翔生（しょうせい）〟に決定しました。

ご協力ありがとうございました。

**★広報担当を紹介します**

リーダー中島宣夫（鎌倉）
サブリーダー宮地彌典（高知）
菅原　周二（塩釜）
日野　茂（桐生）
木内　修二（市川）
竹林　武一（津）
今井　陸雄（鳥取）
池増　徹（指宿）

楽しい会報の紙面づくりを目指します。

## 編集後記

全国商工会議所青年部連合会（商青連）も発足以来、はや三年の時を刻み、本年二月には、プレ創刊号が発行されました。

ネーミングも「翔生（しょうせい）」と決定し、商青連の正式な会報として、発行する運びとなりました。会報発行と申しましても当委員会にとっては、全く未知の分野であり、五里霧中の状態です。二号・三号と徐々に内容を充実させ、皆様方のご期待に添えるよう努力する所存です。また商青連の規約第三条にあります「会員相互の親睦と連携」が、会報の発行により、少しでもお役に立てば、当委員会にとって、このうえなき喜びであります。

短期間にご無理な原稿のお願いをし、広報委員会一同感謝の念に絶えません。紙上を拝借しお礼申し上げます。